情報リテラシー教育における学生への意識調査
- 学習目標の比較を中心に -

木川 明彦*1
Email: akihiko913@yahoo.co.jp

*1： 宮城大学大学院事業構想学研究科　博士後期課程

◎Key Words リテラシー，学習目標，モバイル，情報フル―エンシー―

1. はじめに

今日、情報の多様化・複雑化に伴い、大学の情報教育はパソコンの基本的な操作に始まり、情報の主体的な理解や情報手段の活用方法など、様々な内容を指導しなければならない現状にある。大学の情報教育においては、高等学校での情報科の設置により、以前よりも高い水準から授業を開始しているように感じられるが、高大の連携は十分と言い難い状況にあり、教室内での学生間の学力の差が生じているとの報告もある。その要因には、こうした社会背景や大学の入試体制といった問題があるように考えられる。また、高等学校においては、情報の多様化・複雑化に伴い、2013 年度入学者より「情報Ａ・情報Ｂ・情報Ｃ」の科目を改め、「社会と情報」「情報の科学」という新しい科目を設け、リテラシーの育成に努めている。

本研究はこうした社会背景を受け、多様化する学生の学習目標に注視し、アンケート調査から、今後の望まれる情報リテラシーの範疇を明確にする。学生の現状を再認識するとともに、今後の教育に一つの提案を行うものとする。

2. 情報リテラシー

現在、リテラシーという用語は広義で使用され、情報リテラシーやコンピュータリテラシー、メディアリテラシーといったように、様々な言い回しがされている。実際、大学教育において「情報リテラシー」といえば、コンピュータリテラシーを想像するものも多いように感じられる。しかしながら、大学教育において情報リテラシーの限定的な定義はない。米国図書館協会の定義を用いるなら「情報が必要な時に、それを認識し、必要な情報を効果的に見つけ出し、評価し、利用することができる一連の能力」であり、限定的な範囲を示すものではない。従って、本章では参考になりえる情報リテラシーの評価の基準を概観する。

2.1 高等学校における情報リテラシー

1999 年の学習指導要領改訂により、教科「情報」が創設され、2003 年度入学者以後、すべての高校生が教科としての「情報」を受けることとなっている。文部科学省の 2002 年『情報教育に関する手引き』によれば、情報リテラシーは大きく分けて下記の 3 観点からの評価がまとめられている。

①情報活用の実践力
課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力
②情報の科学的な理解
情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善したりするための基礎的な理論や方法の理解
③情報社会に参加する態度
社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

2.2 大学の視点

大学教育においては、2008年文部科学省中央教育審議会は、「（答申）学士課程教育の構築に向けて」の中で、大学の学部教育の見直しとして、「学士力」を提言し、情報リテラシー教育の重要性を説いている。この中で、情報リテラシーとは「ICTを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則して効果的に活用することができる能力」と定義されている。大学教育においては情報機器の技能に加え、情報活用の実践力に重点を置いているように考えられる。

2.3 情報フル―エンシー―の視点

1999 年、アメリカ学術研究会議が提案した指標である。生涯生活していく中において情報技術をいかに活用していくかという視点であり、その能力を 3 観点 30 項目で評価している。

①情報技術の概念
コンピュータ・情報システム・ネットワークといった情報の基礎的概念の習得
②情報技術のスキル
パソコンのセットアップ・office ソフトの基本的な操作、インターネットの活用などコンピュータの操作と管理に関する技能の習得
③知的能力
議論を継続的に行うこと、複雑な問題に対応する能力・解決案を試行することなど、情報技術を生かしていく活用能力の習得

3. アンケートの実施

アンケートは東京都内に大学に在籍する文系の学生を対象に、学生のパーソナルな学習環境の現状調査および学習目標の比較検討の為に実施した。本章では調査結果の中から根幹となる調査結果のみ記載する。

3.1 調査概要

アンケートは、全 22 項目あり、大きく「学習環境に関する項目」10 項目、「履修に関する項目」4 項目、「学習状況・学習目標に関する項目」7 項目に分類し、講義内で資料配布して匿名で回答していただいた。

・調査対象および調査期間

東京都内に所在地を有する大学 3 校に調査協力をしていただいた。実施期間は 2014 年 6 月中に実施した。調査対象の詳細は以下のとおりである。

・男女比

男性　101 人(62.7%)　:　女性 60 人(37.3%)

・学年対比

一年生　118 人(73.3%)　:　二年生　22 人(13.7%)

三年生　13 人(8.1%)　:　四年生　8 人(5.0%)

3.2 学習環境に関する項目

はじめに学習環境についてである。「自宅にパソコンがあるか」の問いに対し、約 89.4%の学生が所有しているとの回答をしている。また、「自宅のインターネット環境が整っているか」の問いに関して、約 91.9%の学生が整っていると回答している。

しかしながら、「どのような方法でインターネット環境を整えているのか」という問いに対し、約 26.7%の学生が「分からない」と回答している。学生の生活環境によっても回答は異なってくると考えられるが、こうしたネットワークに関する質問に関してはあまり高い評価は得られなかったように感じられる。また、「授業の時間を除く、1 日のパソコンの使用時間」を問う質問に関しては約 1 時間未満と回答した学生が一番多く、約 43.5%であり、約 1～3 時間と回答した学生は約 33.5%であった。使用目的としては、課題の作成、インターネットでの資料検索などが多く挙げられた。

3.3 履修に関する項目

本節では「履修目的」「シラバスの確認」「授業の難易度」などの項目を調査した。

先ず、履修目的だが、圧倒的に「必要な単位のため」「就職に活かしたいため」といったネガティブな回答が多く挙げられた。履修登録前のシラバス確認の有無に関する項目においては約 3 人に 1 人が確認していないと答えている。最後に、授業の難易度に関しての項目であるが、約 67%の学生が「難しく感じる」「まあまあ難しく感じる」と回答している。当然のことに感じられるが、逆に、約 33%の学生が「簡単に感じる」「まあまあ簡単に感じる」と回答していると考えると、学生の個人差や感じ方が異なるように感じられる。一方で、授業の感想に関する項目において、約 53.6%の学生が「授業は難しいが、おもしろく感じている」というポジティブな回答が挙げられている。

3.4 学習状況・学習目標に関する項目

学習目標に関する項目を一つ提示しておく。本調査は下記の 7 項目 15 の選択肢を用いて調査を行った。

・パソコンの基本的な操作に関する項目
・情報手段の適切な活用に関する項目
・パソコンの管理に関する項目
・情報の活用・主体的な理解に関する項目
・個人的な技能に関する項目
・コミュニケーション能力関する項目
・その他

情報教育に関する実施アンケートにおいては「パソコンの基本的な操作に関する項目」が一番大きな割合を示していた。次いで、「情報手段の適切な活用に関する項目」「パソコンの管理に関する項目」への関心の高さがうかがえた。個別の項目では「Office ソフトの操作に関する項目」が一番大きく、約 21.1%を占めている。次に多い項目は、「コンピュータを用いて、プレゼンテーションや説明ができるようになる」という学生の生活と大きくかかわる項目であることが分かった。一方、情報の収集・分析、著作権などに関する項目は約 9.7%としかないことが明らかになった。

4. 考察

以上のことから、学習目標は学生に直接関係する項目に重点が置かれていることが明らかになった。学生が重視しているのは定期テストや就職・卒論作成であり、著作権に関する項目や情報の選択といった技能が低いのは、誰に教わることもなく運用できてしまっているからのように感じられる。

情報リテラシーが含む内容は多岐にわたるが、多様化する学生に対応するため、個別のニーズにこたえていく必要があるように感じられる。

5. おわりに

本稿では、サーベイやアンケート結果など簡略化して記載してしまっている部分が多く、大いに反省したい。加えて、情報リテラシーの方向性をしたものの範囲や明確な指針を示すまで至らなかった。今後は論点を精査し、一時点での評価だけでなく、継続的な研究を行っていく所存である。

6. 主要参考文献

(1)辰巳丈夫“情報フル―エンシ―を意識した大学の一般情報教育のカリキュラムの提案”，情報処理学会研究報告 Vol2009-CE-100No9，pp1-8(2008)

(2)戸田光昭“大学における情報リテラシー教育 - 情報活用能力を高める基盤として - ”，情報管理 42(12)，pp1006-1013(2000)

(3)飯嶋佳織“大学生の情報リテラシーに関する調査研究 - 情報活用能力と情報フル―エンシ―の視点から - ”，神戸山大学紀要 13 号，pp1-11(2011)

(4) 静谷啓樹“情報セキュリティー教育の輪郭線”，情報リテラシー研究論叢 No.1，pp72-83(2012)

(5)文部科学省 HP　www.mext.go.jp/